

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
生きる力を身に付け、地域の思いを受け継ぐときわっ子の育成	① 学校や家庭、地域との連携を強化し、コミュニティスクールの体制をつくり、信頼される学校づくりをめざす。 ② 基礎的な知識技能の定着と「言語活動」の充実を図り、思考力・表現力の向上をめざす。 ③ 児童が自ら進んで生き生きと取り組む教育活動の活性化を図る。 ④ 教職員の協働研修(ICT利活用の研修等)を充実させ、授業力向上をめざす。

到達度
 A: ほぼ達成できている
 B: 概ね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

3 目標・評価

① 学校運営: 学校や家庭、地域との連携を強化し、コミュニティスクールの体制をつくり、信頼される学校づくりをめざす

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善策・向上策
学校経営	○学校経営方針	学校目標や本年度の重点目標の周知	・児童、保護者、教職員、地域に周知し、「学校の様子分かる」と答える保護者を90%以上にする。	・学校便り、学校ホームページ、ケーブルテレビ、全校朝会、育友会活動等で周知する。 ・学校目標と行事等のねらいを関連付けて指導していく。	A	☆定期的に学校便りの発行、ホームページの更新を行い、今年度の重点取組について周知を図るようにした結果、保護者アンケートの結果は99%であった。 ☆行事等では、目標を児童に分かるように提示し、教師も意識して指導するようにした。教職員の個人の意識は向上している。	○学校目標から学級目標を設定していることを児童にも理解させて、意識を高めるようにする。 ○育友会総会や学年育友会などで、学校の経営方針や重点取組について保護者に分かりやすく説明する。 ○教育活動や行事についての反省を記録して次へ生かす方策を考え、より効果的な内容となるようにする。
学校運営	○危機管理	危機管理体制の整備	・児童の交通ルール遵守に対する意識を高める。 ・教職員及び保護者の危機意識の向上を図り、交通事故防止、生活事故防止に努める。	・年度初めに交通安全教室を開き、児童の道路歩行及び自転車の安全な乗り方の指導を行う。 ・保護者と協力して通学路点検を年に2回行い、事故防止に努める。 ・日常の点検及び月1回の安全点検を確実に実行し、教職員の意識向上とともに校内の安全管理に努める。 ・学校だよりや学校ホームページ、学級通信等で保護者に学校での取り組みを紹介し、保護者との連携に役立てる。	A	☆年度当初に歩行教室や自転車教室を実施し、事故防止への意識を高めることができた。また、気になる事案が起こった場合にはその都度注意喚起を行うと共に定期的に交通ルールや自転車の安全な乗り方等について指導することができた。 ☆職員と育友会生活指導部で通学路の点検を行い、危険箇所については「安全マップ」を配布して児童や保護者へ注意喚起を行うことができた。 ☆火災避難訓練において連絡体制や通報機器についての共通理解を図ることができた。 ★校内の安全点検を月1回行っているが、担当者によって実施がばらばらである。 ★危険箇所点検や通学路パトロールを職員が行う機会が少ない。	○交通安全は今後も継続していく。また交通安全については、機会を見つけて交通ルールの遵守など、継続的な指導を続けていく。 ○職員による危険箇所点検や通学路パトロールを学期に1回以上行う。 ○児童の生活事故防止のため、校内で気になる点については、職員間で共通理解を図り、指導に生かす。 ○防災警報盤や配電盤の位置と確認方法について、職員間で共通理解を図る。
学校運営	○家庭・地域と連携した開かれた学校づくり	学校情報の公開と連携	・学校便りは月2回以上、ホームページの更新は週1回以上行い、学校情報を流すことで教育活動に関心を高める。 ・学級だよりを定期的に発行する。	・児童の活動の様子をカメラなど随時記録し、広報活動の資料に活かす。 ・学級だよりを発行し、児童の学習の様子や授業の様子を知らせ、家庭との連携に生かす。	A	☆学校だより月2回、ホームページ更新週1回の情報発信をほぼ実施することができた。 ☆学級だよりは、ほとんどの学級で週1回程度発行することができた。 ☆毎月1回、橋公民館に、学校行事を中心とした教育活動を写真と説明で紹介する「トムソーヤ通信」記事を掲載することができた。	○ホームページの内容を、行事の紹介だけでなく、授業の様子や学力向上についての取組紹介などを取り入れ、充実させていく。 ○学校が家庭・地域と連携した教育活動をさらに紹介していく。
		コミュニティスクール・官民一体型学校づくりの推進	・コミュニティスクールの組織をつくり、地域連携の体制を整える。 ・地域人材の登用を各学年年間1回以上取り込む。 ・「花まるタイム」「青空教室」「なぞペー」を実施することにより、学習に対する意欲の向上、学習習慣の定着、基礎的な知識技能の定着、思考力の基礎を養うことをめざす。	・公民館など町内の各組織との関連行事を整理し、組織との位置づけを明確にし、効果的に実践していく。 ・地域人材の更なる発掘と人材登用に努める。 ・学校支援地域本部と連携して「花まるタイム」を計画的に実施する。 ・「青空教室」「なぞペー」は、学年の実態に応じて計画的に実施する。	A	☆町内各組織との関連行事を一覧表にし、連絡先一覧を作成することで、連絡調整をスムーズに行うことができた。 ☆体験学習だけでなく、教科におけるゲストティーチャーを地域支援員の中からお招きすることができた。 ☆「花まるタイム」年間108回、「青空教室」年間4回、「なぞペー授業」年間8回を実施することができた。「進んでできている」と答えた児童は97%であった。 ☆「花まるタイム」では、毎朝、地域支援員の控え室に出向き、連絡等を行ったり、情報交換を行ったりすることができた。	○新学習指導要領実施に向けて、コミュニティスクールの組織の整理や再編を考えていく。 ○各教科の学習内容に関連した活動のゲストティーチャーを確保するための「人材マップ」を作成する。 ○「花まるタイム」では、職員で共通した指導法を継続していく。

② 確かな学力の向上と定着: 基礎的な知識技能の定着と「言語活動」の充実を図り、思考力・表現力の向上をめざす

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	基礎学力の定着及び思考力・表現力の向上	・児童が学ぶ意欲を高め、自主的に学ぶことのできる授業づくりを行い、基礎学力の定着と思考力・表現力の向上をめざす。 ・「授業がわかる」という児童を80%以上にする。 ・国の学習状況調査において、全学年、全項目の平均正答率を上回ることをめざす。 ・個に応じた指導支援の充実を図る。 ・図書館貸し出し数 一人100冊以上をめざす。	・算数科を中心として学び合いの充実を図る手立てを工夫し、思考力・表現力を向上させるための授業研究に取り組み、校内授業研究を充実させる。 ・学習状況調査等の結果を分析し、児童の実態に合わせた手立てを考え、指導方法の工夫改善に取り組む。 ・ICTを効果的に利用した学習過程の充実を図る。 ・授業の内容と連動させ、主体的に学ぶ力を高める家庭学習の在り方を工夫し全職員で共通理解を図りながら実践する。 ・「花まるタイム」を充実させるとともに、補充学習(毎週火曜日の放課後)を計画的に実施する。 ・図書環境の充実を図るとともに、テーマを設定するなど、児童の意欲と質を高める読書指導を行う。	B	☆全職員で1回は算数科を中心とした研究授業を行い、予習や話し合い活動を生かし思考力・表現力の向上をめざす授業づくりに取り組むことができた。 ☆全国・県学習状況調査の結果考察を基に記述式や活用に関する指導法についての研修を行い、共通理解を図ることができた。 ★補充学習(パワーアップタイム)を計画的に実施することができなかった。 ★読書指導では、学年のお勧めの本を指定し、読書の推進を図ってきたが、貸し出し数一人年間100冊は達成できていない学年もある。	○校内研究を通して、予習や話し合い活動を生かし思考力・表現力の向上をめざす授業づくりの在り方を探り、授業改善へとつなげる。 ○学習状況調査の結果を基に、活用に関する問題に取り組ませる機会を設定していく。 ○予習を授業に生かすための家庭学習の在り方をさらに工夫していくとともに、「自主学習」へ意欲的に取り組ませる手立てを考える。 ○補充学習(パワーアップタイム)の実施計画を立て、有効に活用できるようにする。 ○読書の質を上げる読書指導の工夫をする。

教育活動	○学習環境の改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ご飯」を奨励し、生活のリズムを整えるなどの目標達成率90%以上をめざす。 ・話す人を見てうなずきながら最後まで聞くなどの学習習慣の達成率90%以上をめざす。 ・毎月1回のノーテレビデーの実施率を90%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と保護者による「ときわっ子生活ふり回りカード」等への記入により、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・話し方や聞き方のモデルや約束を提示し、定期的に振り返らせる。 ・「学習用具の約束」「家庭学習(自主学習)の手引き」を作成し、家庭での学習習慣を定着させる。 ・毎月初めのノーテレビデーでは取組レポートを提出してもらい、実施状況を把握するとともに実施意欲につなげる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ☆「ときわっ子振り回りカード」で、基本的な生活習慣についての意識づけができ、児童の家庭生活の様子を把握して指導に役立てることができた。また、年度途中で評価項目を見直すことで、様々な角度からの基本的な生活習慣をつけさせることができた。 ☆「学習用具の約束」の徹底、家庭学習の工夫(自主学習への取組)などを行い、基本的な学習習慣の定着を図ることができた。 ☆毎月1回のノーテレビデーの実施率は約90%であった。 ★ノーテレビデーの実施率は高いが、取組に差が見られる。また、家庭での生活リズムへの意識低下も見られる。 ★「学習用具の約束」を継続できない児童が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初に「学習用具の約束」「ノーテレビ・親子読書」について全体の場で話し、指導を徹底する。 ○育友会総会で「学習用具の約束」「早寝・早起き」「親子読書」の意義について紹介し、保護者への啓発を図る。 ○親子読書のコメントを学級通信などで紹介していく。 ○定期的に学習用具をチェックしたり、学級通信等で発信していくことで家庭と連携を図り、「学習用具の約束」を徹底していく。
------	------------	------------------	--	--	---	---	---

③ 豊かな心を育む教育活動の推進:児童が自ら進んで生き生きと取り組む教育活動の活性化を図る

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通じた道徳教育の充実を図る。 ・家庭や地域、関係機関と連携した体験活動の充実を図る。 ・違いを認め合い、支え合い、つながり合う仲間づくりをめざす。 ・「人権」尊重の意識を常にもって全ての教育活動に当たる。自分も友達も大切にできる児童を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化へ向けて、体験活動と関連させた道徳の年間計画を整備する。 ・「ふれあい道徳」を実施し、保護者や町民に道徳教育の状況を公開する。 ・あいさつや言葉遣いについての効果的な指導方法を検討し、心の豊かさを醸成する。 ・人権集会や人権週間を設定し、児童・保護者・地域への啓発や発信を積極的に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ☆道徳の教科化へ向けて、改訂のポイントや評価についての職員研修を実施することができた。 ☆「ふれあい道徳」を実施し、授業を工夫することで、多くの保護者に道徳教育に関心をもってもらうことができた。 ☆人権週間や人権集会を実施し、ジェンダーフリーについて児童に考える場を設定できた。 ★挨拶運動を実施した時は、校内での挨拶が良くなるが、持続して進んで挨拶できるようになっていない。全体での挨拶はできるが、個人で進んで挨拶できる児童は少ない。保護者の評価も84%と他と比べると低くなっている。 ★友達や目上の人に対する言葉遣いや返事、質問に対する答え方などの指導が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事や体験活動との関連を考えた年間計画の整備を進め、道徳の授業実践の充実を図る。 ○「ふれあい道徳」では、授業内容や児童の反応、保護者の感想などを学級通信等で紹介し、道徳教育についての情報公開をする。 ○人権集会では、さまざまな人権についての学びの場を提供していき、他の教科や学級活動においても機会を捉えて人権について考え話し合う場を設定し、人権意識を高める。 ○挨拶や言葉遣いに対する効果的な指導方法について検討し、実践する。
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校やいじめに対して、未然防止・早期発見・早期対応に適切に対応できる教育相談体制を充実させ、関係機関等との連携強化に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するアンケートを毎月末に実施し、状況把握に努める。 ・Q-Uを5月・10月の2回実施し、学級での児童の状況を把握する。 ・担任と児童の個人面談を、5月・11月の2回実施し、児童の状況を把握し、適切な対応に努める。 ・察知されたならば、児童との面談後、「覚知」、「認知」の判定を行い、状況によっては、22条委員会を設置し適切な対応に努める。 ・事案の解決に向けては、学校として、組織的、計画的に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ☆「生活アンケート」を各クラスで毎月実施し、気になる事案に対しては担任や他職員が連携して早期に対応することができた。 ☆Q-Uの結果や日々の学級での様子の中で特に気になる児童について、全学年の職員で組織的に対応することができるように共通理解を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後も「生活アンケート」を毎月実施し、児童の実態把握に努める。 ○Q-Uの結果考察について、スクールカウンセラーの同席を依頼し、専門的な視点を取り入れて対応することができるようにする。 ○学級通信等で日頃の児童の様子を知らせたり、道徳の授業の内容を載せたりすることで、実際の指導の様子を保護者に理解してもらうように努める。
教育活動	○体験活動	「ときわっ子体験活動」を中心とした体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・稲作体験、野菜づくり、サツマイモ栽培等の体験活動を通して、勤労生産の意義や作物と自然との関わりを学ばせるとともに、地域の思いや願いを大切にしようとする意識を高める。 ・地域の方と体験を通して関わりを深め、感謝する心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の体験活動を見直し、事前指導を行ってから活動に臨ませる。また、事後の振り返りをさせ、その後の学習につなげる。 ・他教科や道徳教育において、体験活動を関連させた学習計画を立てて実践につなげる。 ・保護者及び関係団体に年間計画を配布したり、情報を早目に伝えたりすることで、より円滑な運営ができるように心がける。 ・地域の方とのつながりを児童に意識させ、日頃の挨拶や感謝の気持ちの表現ができるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ☆それぞれの体験活動において、目的や活動の見直しをもたせ、事前指導を行って計画的に実施することができた。 ☆児童は、体験活動の成功や達成感が、地域の方の支えによるものであることを十分に理解できており、体験活動を通じて築いた地域の方との絆や、感謝の気持ちを、活動後のお礼やお手紙、ときわ祭りなど様々な場面で表現することができた。 ☆田んぼの学校では、橋という地域で引き継がれているもの・受け継がれていくものを理解し、自分たちも地域の一員としての役割を果たそうとする姿勢が意欲が高まった。 ☆野菜作りや稲作体験、ときわ祭りの出店等において、各種団体の方との事前打ち合わせを行い、指導の目標や活動内容を伝えることで、学習に結びつけやすくなり効果的な体験ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動に際し、いつ、どのような準備が必要か確認して資料や写真を申し送りとして残しておき、学習にスムーズに入れるように工夫する。 ○他教科や道徳の時間と関連した学習計画を立て、体験活動を生かした学習を実践していく。

④ 教職員の資質や指導力の向上:教職員の協働研修(ICT利活用の研修も含む)を充実させ、授業力向上をめざす

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	授業研究及び職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・一人1回の研究授業を行う。その際講師招聘を2回以上行う。 ・授業研究会や研修会等に積極的に参加し、自己の授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究において、研究授業を計画的に実施する。 ・授業研究協議会の持ち方を工夫し、「言語活動の充実」や「学び合い」といった視点での反省を行い、その後の授業実践に生かせる具体的な手立ての実践につなげる。 ・教育センターの講座や夏季休業中の研修会等に参加し、職員相互で意見交流をする場を設定する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ☆研究授業の参観や指導案検討を通して、授業力向上を図ることができた。また、校内研究の視点の1つである予習学習については、共通理解したことを活かして実践することができた。 ★予習については、試行錯誤しながらやってみたが、他の先生方の実践についてさらに交流を深めたい。 ★研究授業の一人1回の実践は行うことができたが、計画は立てたものの他の行事との重なりや多忙さにより時期がずれ込んでしまった授業もあった。 ★他校の授業実践や研究会に参加することができず、十分に情報収集を行うことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本年度の問題点や課題を焦点化し、改善すべき内容については、年度初めに共通理解を図って研究計画を立てる。 ○予習の事例を型分けして、次年度の参考となるようにまとめておく。 ○研究授業の実施計画を年度当初に立てておく。 ○夏季休業中を利用して、授業研究の講座や研修会に参加するとともに、指導法についての意見交流を定期的に行う。
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	授業研究及び職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットやデジタル教科書、デジタルコンテンツ等の効果的に利用した分かりやすい授業づくりをめざす。 ・「ICT(電子黒板やタブレット等)を使った授業は分かりやすい」という児童を80%以上にする。 ・ICT活用教育の質の向上を図るための職員研修を2回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の効果的な活用に関する職員研修を夏季休業中を利用して2回以上実施する。 ・研修を適宜実施していくことで、タブレット、「e-ライブラリ」等の活用能力を高める。 ・授業に効果的なコンテンツを積極的に活用し、児童の授業理解を深めるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ☆夏季休業中のICT機器の効果的な活用に関する職員研修は計画通り行うことができた。 ☆新たに加わったプログラミング学習では、成果発表会で結果を出しやすかった。 ★ICT機器の利用方法について、職員間で日常的に交流する場が少なかった。 ★タブレットの活用はある程度はできているが機器の不具合が起こることも多く、担任では対処できないため、支援員の支援は必須である。 ★ICT機器の研修等も行い、活用していこうという意欲は高められたが、タブレットの不具合が多く、実践することが難しかった面もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員研修を計画的に実施し、使い方や操作方法だけでなく、活用例などを交流したり、教科ごと単元ごとに活用できるコンテンツなどをまとめておくことでもっと使いやすくなり、効果的な利用方法を探る。 ○事前にICT支援員が必要な授業計画を立て、効率的に授業支援ができるようにする。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

⑤ 健やかな体を育む教育活動の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	運動習慣の改善と定着化	・児童の運動習慣の形成や運動意欲を高め、体力向上を図る。	・新体力テストの結果を基に、児童の実態や体育の授業実践について意見交流する場を設け、指導計画を見直したり、体育の授業の充実につなげたりする。 ・外遊びを奨励するための手立てを検討し、職員で共通理解を図る。 ・委員会活動や縦割り活動と連携した「運動集会」等を企画し、運動意欲を高める。	B	☆外遊びの励行について、職員で共通理解し、高学年を中心に実践することで、朝早くから外遊びをする児童が増えた。また、運動集会を月に1回実施することで、低学年を中心に多くの参加者があった。 ☆保健だよりや保健室前掲示を通して、外遊びの必要性や良さを知らせることで、児童が積極的に外に出て遊ぶように意欲付けをすることができた。 ★新体力テストの結果や体育の指導実践について意見交流する場を設けることができなかった。	○新体力テストの結果を基に、児童の実態や体育の授業実践について交流する時間を設定し、体育科授業の充実を図る。 ○運動集会を縦割り活動と結びつけることで、異学年交流の風土を活性化するとともに、遊具や備品を整備し、児童が遊べる環境づくりを行う。 ○保健だよりや保健室前の掲示について、他の職員からの助言を受けることで、より児童の興味・関心をひく内容となるように努めていく。
		望ましい食生活習慣の形成	・食育指導を計画的に実施し、「食」の自己管理能力とマナーの向上に努める。	・毎月の給食の目標を意識した指導を行う。 ・「ときわっ子体験活動」や道徳、学級指導等と関連させて、食の重要性や食に関わる人への感謝についての指導を行う。	A	☆毎月給食目標を知らせることで、児童が食事のマナーや栄養等に関して意識をするよう指導することができた。 ☆体験活動で野菜や米を自分たちで育て調理することで、野菜本来のおいしさに気づかせることができた。	○食育指導にあたっては、児童の食に関する実態を把握し、その実態に即した内容の指導をすることで、より興味・関心をひくものとなるよう努めていく。 ○学校栄養教諭と連携を図り、食育の授業実践を行う。 ○「ときわっ子体験活動」と教科等との関連をもたせ、食への興味関心を高める。

⑥ 時代のニーズに対応した教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特別支援教育の充実	特別支援教育の支援体制の充実	・特別支援教育コーディネーターを中心として校内支援委員会の活性化を図る。 ・個別の支援計画・指導計画に基づき、児童のニーズに対応した指導・支援をめざす。 ・交流学級との連携をとり、全校児童の融和的児童交流を促進する。 ・教職員全体の専門性の向上と校内支援体制の充実を図る。	・児童支援研修会を年4回実施し、児童理解と適切な支援を行う。 ・QUアンケート結果をもとにした校内支援のための協議会を開催する。 ・特別支援担当教員と学級担任で連携して、交流学級での円滑な活動に努める。 ・夏季休業中に「発達障害のある児童に対する支援」「個別的教育支援・指導計画」についての職員研修を行う。 ・支援計画を定期的に見直し、専門機関から助言を得ながら支援の充実を図る。	A	☆年度初め、QUアンケート後、年度末の4回の児童支援研修会を実施し、全職員での児童理解に努めた。 ☆特別支援学級や支援員の時間割を交流学級にも配布し、教育活動が円滑に行くように配慮した。 ☆巡回相談・SC医療機関等の助言を得て、支援内容を見直し、個に応じた支援ができるように努めた。	○進学を見据えた個別の支援計画・指導計画を立てて、児童の指導や支援をしていく。 ○SCを活用した本校児童の事例研修をしたり、巡回相談を計画的に要請をしたりする。

●は共通評価項目、○は独自評価項目

4 本年度のまとめ・次年度の取組

「学校経営方針の周知」「危機管理体制」「家庭・地域と連携した学校づくり」については保護者アンケートでも高評価をいただいております。また、「学習環境の改善充実」については、今年度から始めた取り組みによって達成度を上げることができました。しかし、「学力の向上」「心の教育の充実」「教職員の資質向上」は十分に達成しているとは言えない。今年度、取り組み始めた手立てについては、今後、継続していきながら効果を上げていけるように検証していく必要がある。また、改善策として挙げていながら、実践できなかったこともある。校務や教育活動を見直し、より効率よく成果をあげる方法について、教職員間で協議をしながら実践へとつなげていきたい。また、保護者の意識が低下している内容や、児童の自己評価が低い内容については、啓発や意欲向上の方策を考え、実践していきたい。